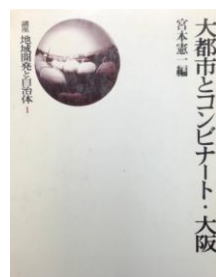


## 二つの「対談」と編集作業

昨日 12 月 25 日は、クリスマスである。つい昨年の子年を思い出した。この日、京都駅前のキャンパスプラザで背広ゼミ主催の「宮本・加茂対談」があった。京都には多くの観光客が詰めかけていたが、早めに会場に行き、4 時間近くの対談に耳を傾けた。やはりリモートよりも、リアル参加がいい。

宮本憲一先生と加茂利男先生との研究面の「出会い」は、1970 年代前半の堺・泉北コンビナート研究である。写真は 1977 年に筑摩書房から刊行された『大都市とコンビナート・大阪』。宮本憲一編「講座 地域開発と自治体」1 であり、2 は『公害都市の再生・水俣』、3 は『開発と自治の展望・沖縄』。「講座 地域開発と自治体」は、主に関西を中心に組織された、学際的な研究会、地域自治体問題研究会の手でつくられた。



私は 1971 年 3 月に信州大を何とか卒業し、宮本先生のもとで研究したいので、大阪市大近くに下宿してゼミを聴講させてもらった。73 年に大学院に入学できたが、その頃から堺・泉北コンビナートの調査が本格的に始まる。74-76 年度に科学研究費が交付され、ゼミ先輩の遠藤宏一さんと研究会事務局をつとめた。

『大都市とコンビナート・大阪』は学際的な調査研究の成果であり、宮本先生が序章 地域開発の現実と課題、加茂先生が第 VI 章 コンビナートと都市政治などを執筆した。二人の対談は、コンビナート研究にとどまらず、ニューヨークや大阪、都市研究やまちづくり、地方自治運動など幅広い分野に及んだ。

2 年前の 12 月 11 日には、同じく背広ゼミ主催の宮本先生と斎藤幸平さんとの対談が開催され参加した。これは背広ゼミ編『未来への航跡 環境と自治の政治経済学を求めて』出版記念会でもある。本書は宮本先生の卒寿を記念したもので、70 年に及ぶ先生の業績が「著作目録」として 136 ページにわたり掲載されている。

斎藤さんは逼迫する気候危機への対応について、コロナ禍は大きな転換が短期に可能なことを示した。資本主義のままでいいのか、どのように変革に向けて行動するかを問う。宮本先生はこれまでの公害反対運動、日本環境会議などの歴史を振り返り、分権型で横につなぐ総合的な運動こそ求められる、などと語った。

その後も直接参加はできなかったが、宮本先生と作家の澤地久枝さん、環境活動家のアイリーン・美緒子・スミスさんとの対談も行われた。背広ゼミとして、『未来への航跡』に続いて、宮本先生の「対談・講演集」が出版できないかと編集会議を重ねてきた。私も編集委員に加わり、校正などをすすめている。何回も原稿を読むなかで、あらためて宮本先生の幅広く、学際的な調査研究に触れることができた。年末から年始にかけて、校正などの最終的な編集作業を行う予定だ。多くの人に読んでもらいたい。

(2023 年 12 月 26 日)